

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取り組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	4
➤ 研究・事例の紹介	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	6
➤ 会議・イベント案内	7
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	7
➤ 会員募集中	8

巻頭書記

最近、JRRN 宛にアジアからのお問い合わせが増えました。自国での業務や研究に活かすため日本の河川再生の技術等を学びたいという内容です。このような交流は、他国の河川再生に関わる技術や情報を共有できる貴重な機会として、JRRN 会員への公開行事としていますので、ぜひご参加ください。

本号では、河川技術に関するシンポジウムでの発表報告、中国大連市からの視察団との交流報告、また会員寄稿記事「水辺からのメッセージ No.14」及び CRRN、TRRN のホームページをご紹介します。

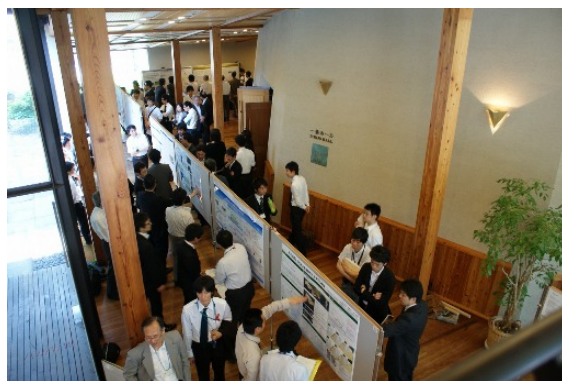
引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

「2010 年度・河川技術に関するシンポジウム(土木学会主催)」発表報告

2010年6月3日(木)～4日(金)に「新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術」をテーマとした「2010年度・河川技術に関するシンポジウム」が開催されました。JRRN事務局では、「河川再生に向けた国際的な産学官民ネットワークの構築」と題して、ARRN/JRRNのこれまでの活動と今後の展望について発表致しました。

発表を通じ、シンポジウム参加者より今後の活動に向けた貴重なご意見を頂くことができました。これらを今後のJRRN運営に活かしながら、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与して参りたいと思います。



発表の様子

○詳しくはこちら

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/2214.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN 活動報告(2)

「中国遼寧省大連市水務局及び水利計画設計院視察団」交流報告

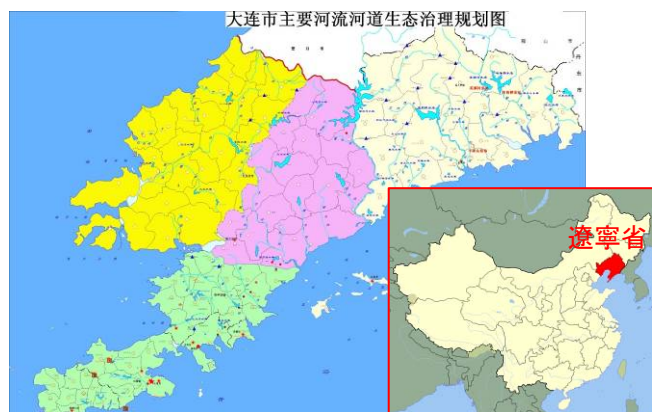
2009年6月11日(金)、中国遼寧省大連市水務局・大連市水利計画設計院・大連理工大学のメンバーによる視察団(13名)が来日し、リバーフロント整備センター(JRRN事務局)を訪問しました。

<技術交流プログラム>

- JRRN事務局より、ARRN/JRRN及び(財)リバーフロント整備センター紹介
- JRRN事務局より、日本の河川整備の歩み、最近の河川整備の考え方、事例説明
- 視察団より、遼寧省大連市の概要、河川の現況と課題、河川環境改善に向けた最近の取り組み紹介
- 河川管理全般に関わる意見交換

本視察団一行は、日本における最近の河川整備の考え方や事業事例の習得を目的に、九州や近畿の自治体が管理する河川を視察するとともに、国内関連機関との技術交流を行うために来日しました。中国遼寧省では、2009年より3ヶ年事業として「河道生態建设工程」が100河川で開始されたこともあり、河川環境改善のための技術、施策、事例等について活発な意見交換を行いました。

大連市の河川事情や当日の交流の様子について、報告させていただきます。



中国遼寧省大連市 位置図

大連市は、中国北東部の遼東半島の最南端に位置し、面積1.3万km²、人口617万人に及び、中国第3の港湾都市として、国際物流、観光の重要地を担っています。日本の仙台市と同程度の緯度で、比較的温帯な気候帯に属し、平均降雨量は650mm程度と、日本の半分以下です。

大連市には、4つの主要な河川(碧流河、複州河、英納河、大沙河)を含む、大小200の河川が流れています。また、23基の大型・中型のダムが設けられ、そのほとんどが利水ダムとして、市民の重要な水源となっています。大連市最大の河川、「碧流河」に建設された「碧流河水庫(ダム)」は、集水面積1785 km²、最大容量9.34億m³、利水を主として、洪水調節、発電、養魚など多目的に利用されています。



大連市第2の河川「複州河」

大連市の河川環境における問題点として、以下が示されました。

- ・河川空間(河積)の減少による洪水の頻発化
- ・河川水質の悪化、都市環境への影響
- ・河川の生物多様性、自然浄化能の低下

1980年代までの大連市の河川の管理は、経済性、土地利用を優先して、河道を極力狭く整備することを基本とし、安全基準は高いものではありませんでした。1990年代後半から、自然環境と調和のとれた河道計画、いわゆる日本の多自然(型)川づくりのような理念が取り入れられるようになり、2000年か

ら河川環境に配慮した整備が始められるようになりました。

視察団から紹介のあった河川環境改善の取り組みの一例として、「小寺河治理工程」（2002年4月竣工）では、堤防整備にあたって、生物の生息場を創出すること、市民が水辺に近づけることに配慮し、緑化・親水護岸を採用するなど工夫が施されました。



「小寺河治理工程」

意見交換では、視察団から河道断面の設計の考え方や計画の妥当性の検証方法（水理計算）など、技術的な質問の他、計画／工事予算などについて、実務的な議論がなされました。また、こちらで配布した「多自然川づくりポイントブックⅡ」に大変興味を示しており、中国においても河道設計の参考となる技術書はまだ少ないようです。

河川環境への配慮がますます重要視される中、中国遼寧省では、2009年より3ヶ年事業として、「河道生態建设工程」が100河川を目標に本格的に開始されたところです。大連市においても、ここ数年間で10数の中小河川で「河道生態建設」の計画・設計がなされ、河川生態系の回復を期待し、人の利用と自然環境の調和のとれた川づくりが取り組まれています。このような状況を踏まえると、今回の技術交流は大変意義のあるものになったと思います。



大連市視察団とJRRN事務局の交流の様子

大連市は、中国最初の「経済技術開発区」に指定され、多くの日本の企業が進出していますが、古くから残されている日本の土木技術もあります。旧日本軍の統治時代に建設された「龍王塘水庫（ダム）」

（1924年竣工）で、当時、ダム堰堤の下には、4千本もの日本の八重桜が植樹されました。今も、「龍王塘桜公園」は大連市の観光名所となっており、日本の技術・文化は生き続けています。



意見交換後の記念撮影

今回、視察団一行の世話役を担っていた許士国先生（大連理工大学教授）は、昨年11月にもJRRN事務局を訪れており、今後も日中の情報交流窓口として、ARRN/JRRNの活動にご支援いただけるかと思います。また、これだけの大団体で訪日し、限られた時間で熱心に情報収集に努める姿勢を見ると、我々としても、日本の河川再生の技術・事例等をもっとわかりやすく伝えられるよう、プログラム設定、資料の準備等に力を入れていかなければならないと強く感じました。国内・国外からの声に関わらず、皆様が「ARRN/JRRN事務局に問い合わせた良かった」と思っただけですよう、より一層尽力してまいります。

（JRRN事務局 後藤勝洋）

水辺からのメッセージ No.14

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

川は地域や学校のために “水辺の楽校”のモデルとして、地元の願いはホタルの復活



撮影：2010 年 4 月（群馬県前橋市元総社）

◆11 年続いた地元協議会が力に

平成 10 年より地域住民や小学校の先生などで作られた「水辺の楽校（がっこう）」協議会は、10 年間 15 回にわたる合意形成をすすめ、とくに児童の安全・安心や水路の水質確保などが配慮されました。

◆川本来の自然の豊かさをとりもどす願い

当初の単一な河川改修断面を変更して、右岸側の樹林を残し、左岸は遊休地も取り込み緩傾斜護岸と小水路を整備して多様な水辺環境が実現されています。（平成 20 年度「関東いい川づくり」2 位受賞）

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

研究・事例の紹介

「中国河川再生ネットワーク」及び「台湾河川再生ネットワーク」ホームページの紹介

JRRN では、ARRN 会員組織である CRRN（中国河川再生ネットワーク）、及び ARRN 活動への参加へ向け中国と現在調整中である TRRN（台湾河川再生ネットワーク）との交流を通じ、河川再生関連情報の相互共有に向けたウェブサイト構築の協力を担っています。

ここでは、現時点で公開されている「中国河川再生ネットワーク (CRRN)」及び「台湾河川再生ネットワーク (TRRN)」のホームページの概要をご紹介します。

(JRRN 事務局 和田彰)

中国河川再生ネットワーク（中国河川生態修復網）



URL: <http://www.cnrrc.cn/>

【ホームページ運営組織】

中国水利水电科学研究院 (IWHR)

→ <http://www.a-rr.net/ip/org/07/501.html>

【ホームページ内の掲載情報】

※上部メニューバーの左から順に紹介

- 河川再生に関わる最新ニュース
- 河川再生に関わる会議・学会情報
- 河川再生事業・計画の進捗情報
- 河川再生事例紹介
- 製品紹介
- 出版物・論文紹介
- 専門家紹介
- 関連リンク紹介
- CRRN について
- 会員情報
- 問合せ先

台湾河川再生ネットワーク（台湾河川復育網）



URL: <http://trrn.wra.gov.tw/>

【ホームページ運営組織】

台湾經濟部水利署水利規劃試驗所(WRAP)

→ <http://www.a-rr.net/ip/org/07/1311.html>

【ホームページ内の掲載情報】

※左上部メニューバーの上から順に紹介

- （トップ）関連計画報告書の概要紹介
- TRRN について
- 河川再生事例紹介
- 湿地生態復元事例紹介
- 河川再生関連ニュース
- 会員意見交換
- 問合せ先

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 個人会員より、メキシコ湾原油流出からの海岸湿地
防御に関する 3 件の報道記事を御提供頂きました。



本記事を扱った英文ホームページは以下よりアクセス可能
です。(言語：英語)

- http://enr.ecnext.com/coms2/article_inen100603ShawBarrier/
- http://enr.ecnext.com/coms2/article_inen100603BPBarrierIs/
- <http://articles.latimes.com/2010/jun/05/nation/la-na-oil-spill-berms-20100606>

また、すべての英文報道記事に対し、日本語仮訳資料もご
提供頂いております。

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2187.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

「NPO 法人 まちづくり
ネット熊取」(JRRN 団体会
員)より、河川クリーンア
ップ(清掃)活動のご報告
を頂きました。



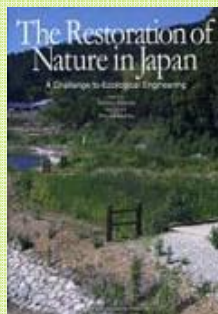
※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2185.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■The Restoration of Nature in Japan—A Challenge to Ecological Engineering

2007 年に出版された「自然再生へ
の挑戦—応用生態工学の視点から
—」(廣瀬利雄監修、学報社)を英訳
した本、「The Restoration of Nature
in Japan—A Challenge to
Ecological Engineering」の出版案
内を JRRN 会員よりご提供頂きまし
た。(英語版)



※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/book/2195.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である社団法人日本河川協会
から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第 147 回】

- ◆テーマ：「渇水の動向とその対応」
- ◆講師：久保田勝 氏 (社団法人 土木学会 理事)
- ◆日時：平成 22 年 8 月 23 日 (月) 18:00~20:00
- ◆場所：シェーンバッハ・サボー 3F「穂高」

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no147.htm

【第 146 回】

- ◆テーマ：「パリがセーヌに沈んだ日〜1910 年パリ大
洪水から 100 年」
- ◆講師：佐川美加氏 (セーヌ川研究者)
- ◆日時：平成 22 年 7 月 26 日 (月) 18:00~20:00
- ◆場所：厚生会館 (全国土木建築健保)

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no146.htm

【JRRN 会員からの提供情報】



「鞍瀬塾」(JRRN 会員)
より、愛媛県で開催され
る「多自然川づくり研修
会開催」のご案内を頂き
ました。平成 22 年度に 6
回の研修会が開催される
予定です。

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2186.html>

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)より

■第 8 回生態水工学国際シンポジウム(ISE2010)

ARRN の韓国窓口組織である韓国河川再生ネ
ットワーク(KRRN)前事務局長・Hyoseop Woo
氏が現地組織委員会委員長を務める「第 8 回生
態水工学国際シンポジウム(ISE2010)」が 2010
年 9 月に韓国・ソウル市で開催されます。

本年の「第 7 回 ARRN 国際フォーラム」は、
本国際会議の特別セッションとして実施致しま
す。日本からの多数のご参加をお待ちしており
ます。

- ・開催時期：2010.9.12~16
- ・開催場所：韓国・ソウル市
- ・主催：韓国水資源協会

※詳細は以下参照 (言語：英語)

→ <http://ise-2010.org/>

会議・イベント案内 (2010年7月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ARRN 主催「第7回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」

- 開催時期：平成22年9月12日～16日の間のいずれか1日
- 開催場所：韓国・ソウル市（第8回生態水工学国際シンポジウム ISE2010 内の特別セッションとして開催）
- 講師：ECRR（ヨーロッパ河川再生センター）会長、日本・中国・韓国・台湾・マレーシアより各1名
- URL：<http://ise-2010.org/>

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■2010 日本ストックホルム青少年水大賞 表彰式

- 日時：2010年7月1日（木）13:00～
- 主催：日本水大賞委員会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2212.html>

■水環境保全のための総合的・横断的取組シンポジウム

- 日時：2010年7月16日（金）13:00～16:20
- 主催：社団法人産業と環境の会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2213.html>

■第146回河川文化を語る会

- 日時：2010年7月26日（月）18:00～20:00
- 主催：社団法人日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2174.html>

■東京の川を考えるシンポジウム2010

- 日時：2010年7月28日（水）
- 主催：東京都建設局
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2171.html>

■淡水魚保全シンポジウム 三重県明和町大会

- 日時：2010年8月5日（土）13:00～17:10
- 主催：明和町大会実行委員会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2148.html>

■第147回 河川文化を語る会

- 日時：2010年8月23日（月）18:00～20:00
- 主催：シェンバツハ・サボー 3F「穂高」
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2177.html>

■第18回リバーフロント整備センター研究所報告会

- 日時：2010年9月10日（金）
- 主催：（財）リバーフロント整備センター
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2107.html>

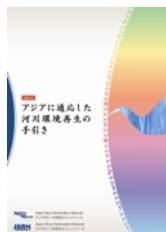
■歴史的用水国際シンポジウム in 金沢

- 日時：2010年10月14日（木）～15日（金）
- 主催：歴史的用水国際シンポジウム実行委員会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2154.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・価格：無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 流域住民の合意形成と川づくり (2010.2 発刊)

- ・発行：（財）リバーフロント整備センター
- ・価格：無 料（送料のみご負担頂きます）
- ・問い合わせ先：（財）リバーフロント整備センター



本書は、島根県出雲市に位置する神西湖流域の治水や自然環境に対して、流域住民の実践的な活動によって「社会的合意形成」が本格的に行われた成功事例を紹介したものです。この「社会的合意形成」の研究成果が、同様の課題を抱えている全国の方々にとって大いに参考になると考え、地元や関係団体の協力を得て、発行しました。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

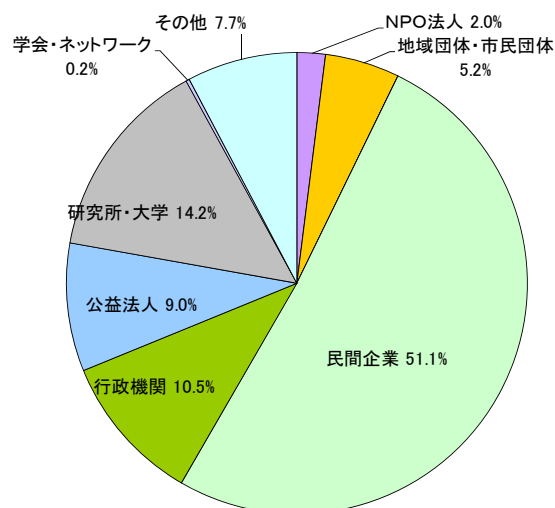
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することができます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010 年 6 月 30 日時点の個人会員構成
(個人会員数：441 名、団体会員数：18 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフテー中央ビル 7 階

Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、財団法人リバー
フロント整備センターと株式会社建設技術研究所が運営を担っています。